

社会奉仕委員会

社会奉仕副委員長 齋藤和實

消防音楽隊は市民との交流のためにありますが 現状を少しお話しします。右の写真は市内の演奏風景です。今、消防団員が18名、消防職員が16名 合計34名で演奏をしております。平成12年に団員の定数を増やしました。そんな中で音楽隊の練習時間もなかなかとれませんが、今日は団長も参加してくれという事でいってまいりました。そのまま例会に来ましたので、こんな格好で申し訳ございません。本日の社会奉仕基金を発表します。3,454円でした。ご協力ありがとうございました。



(松戸市内の演奏風景)

齋藤国春 会員

から写真提供

撮影場所は、カナダのローレンシャン高原です。



ロータリーの実践倫理

「最もよく奉仕するものは、最もよく報われる」 He profits most who serves best.

《会報・IT・雑誌
・広報委員会》

委員長：伊師 剛迪 副委員長：大川 隆永
委員：平田 洋一 委員：高崎 卓哉

社会奉仕基金
3,595円

国際ロータリー第2790地区第12分区
松戸北ロータリークラブ



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011-2012 国際ロータリー・テーマ

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1・真実かどうか
- 2・みんなに公平か
- 3・好意と友情を深めるか
- 4・みんなのためになるかどうか

第1891回 例会 (第 16 週) 2011年10月25日(火)

国際ロータリー会長カルヤン・パネルジー
第2790地区ガバナー 山田修平
第12分区ガバナー補佐 安井克一
松戸北ロータリークラブ会長 鈴木悦朗
松戸北ロータリークラブ幹事 兎山守治

例会日 - 毎週火曜日12:30より(第1例会18:30)
例会場 - 松戸市根木内249-7 北小金ボウル1F
事務所 - 松戸市根木内249-7 榊山安内
TEL/FAX - 047-344-5696 / 047-344-5696
Web/Mail - www.rc2790-12.jp / kanji@rc2790-12.jp

The Ideal of Service (奉仕の理想) にむけて夢を追いかけよう

 会長挨拶：鈴木悦朗

10月は職業奉仕月間・米山月間です。先日の情報研究会では、藤川享胤氏を講師として、ロータリークラブの目指すべき道について、先週はロータリーの根幹である職業奉仕のことについて松戸東RCの安藤さんにわかりやすくお話していただきました。ロータリーはご高尚のように、自分たちの会社経営にも役に立ち、地域社会に貢献する経営哲学の勉強会から始まりました。それがシェルドンの最もよく奉仕するものは、最もよく報われる」 He profits most who serves bestを基調とする奉仕の哲学を取り入れることによって広がっていきました。職業奉仕の一環として他のクラブでも研修が開かれています。松戸クラブでは例会が終わってから1時間半希望者を対象に勉強会を行ったり、松戸東クラブでは研修委員会をつくらしてあります。今日はロータリアンではないですが、家田真人会員のご紹介で武井 勲先生に「リスクマネジメントについて」お話をさせていただきたいと思っております。周りの環境が進化していく中でこれから中小企業が成長していくにはさまざまな戦略が必要なのではないかと思っております。「入りて学び 出でて奉仕せよ」というロータリーの精神で皆さんにご静聴いただければ幸いです。11月8日は移動例会としてびわ亭で例会を行ないます。「日本のガン医療の最前線」について卓話を山本穰司会員にお願いいたしました。

 幹事報告：児山守治

1. 例会変更のお知らせ
松戸西ロータリークラブ
11月 6日(日)は地区大会出席のため
11月 9日(水)の例会は休会
松戸ロータリークラブ
11月 9日(水) 夜間移動例会
「創立55周年記念例会」
場所 ホテル ザ マンハッタン
点鐘 18:30
2. ロータリーレート
1ドル・・・78円
3. 第20回外国人日本語スピーチコンテスト
協賛のお願い

講師プロフィール 武井 勲様

現在 社団法人実践リスク・マネジメント研究会 (IARM) 理事長

略歴 1944年長野県出身
米国リスクマネージャー協会教育顧問 (22年間)

公的活動 原子力損害賠償紛争裁定委員会
専門委員

「卓話」

テーマ

「3.11後、復興のための
リスク・マネジメントと危機管理」

目次

1. リスク・マネジメントと危機管理のちがいは
2. あなたは変化に対応できますか
3. リスク・マネジメントが最重要課題の時代
4. あらゆる組織のリスク・マネジメント・イニシアティブを
5. リスク・マネジメントと危機管理のリーダーとリーダーシップが求められている

松戸ロータリークラブ2011.10.25の卓話は、武井勲(一般社団法人 実践リスク・マネジメント研究会理事長)が、「3.11後、復興のためのリスク・マネジメントと危機管理」について、話され、「リーダーとリーダーシップの不在が日本のリスクだ。リスク・マネジメントと危機管理リーダーとリーダーシップの求められている」と強調した。

「変化がリスクの元であり、また同時にチャンス元である」とのべ、「あなたは変化に対応できますか?」と問いかけた。3.11は、不幸な出来事であったが、希望という目標を見つけ、その目標を達成するリスク・マネジメント(経営と管理)をしなければならないと、強調した。3.11後を、復興を通して、「リスク・マネジメントと危機管理に強い個人・組織・社会・国家に飛躍する絶好機」にしたいので、リスク・マネジメント・イニシアティブをみなさんがとってほしいと呼びかけた。

特に「変化速度の違いというリスク～早い車と遅い車～」という比喩的な話がわかりやすく、考えるヒントになるので、概略を述べる。

1. 先進国が時速100キロで走っているときわが国またはあなたの会社がそれ以下でしか走れないとしたら、グローバル競争に勝ち残ることはできない。
日本の企業も100キロまたはそれ以上で走れるところも少なくない。競争力はある。反面、競争力の弱い企業もある。中小企業も熾烈な競争による変化に後れを取ってはならない。それをチャンスとして生かし、リスクとしてリスク・マネジメントと危機管理をしながら、リスク・テキングをすることが肝要だ。
スピード競争は、技術、金融、財政、規程の改定、市場の多角化という面でも、同じことが言える。
2. 日本のロータリー・クラブその他の社会団体は、世界のそれが100キロに対し、90キロ程度に食いついているといえよう。環境、政府規制、防衛支出、用途地域規制、疾病研究費、食品基準、人権などの社会団体は、スピードについていく努力をし、後塵を拝してはならない。
3. 日本の家族は、60キロ程度といえようか? 数千年続いた大家族から核家族に、この40～50年のあいだに工業化と都市化が起きた。「夫が働き、妻が専業主婦で、18歳以下の子供が2人いるのが標準世帯」というように、結婚・家族制度は様変わりした。農業時代から工業化の時代となり、家庭が生産チーム(子供教育、病人看護、老人介護)であったのが、職住分離(工場、学校、医師か病院、政府による老人介護)によって変化した。企業は機能の外注(アウトソーシング)が当たり前になってしまった。しかし、近年、アメリカの家族は機能の内製化(インソーシング)への変化がでてきている。在宅勤務(デジタル革命)、買い物、投資、株式売買も家でできるし、教育もやがては一部家庭に戻るだろう。

高齢者の介護も(健康保険の影響で)。家族の形態、離婚の頻度、性、世代間の関係、異性との出会い、大きく変わりつつある。

4. 日本の労働組合は、時速30キロくらいか。NGO(非政府組織)は時速90キロで増加中。
5. 官僚機構と規制機関は、時速25キロの車か?
6. 教育制度は、10キロ? 時速10キロで動く学校や大学は、その10倍の速度で変化する企業での仕事をこなせるように生徒・学生を教育できるのか?
7. 国連、国際通貨基金(IMF)、世界貿易機関(WTO)、万国郵便連合など国際機関は、時速5キロ
8. いまの政治制度は、知識経済の複雑さと猛烈なペースを扱えるようには設計されていない。時速3キロ。
9. 法律にいたっては、なんと時速1キロ。今から将来に向かって、変化に適応することによって、「価値の創造と保全を続けること」がリスク・マネジメントの本質である。確実なものなどほとんどない。不確実性のリスクに勇気を持って試みるのが、リスク・マネジメントの本質である。
(武井様の電子メールを全文引用)

 ニコニコBOX

吉田俊一会員

過日はロータリー農園のさつまいもを頂きありがとうございました。今年も菊の季節になりました。松戸の戸定館の展覧はやめ大阪の国葉園に出展しました。審査は11月5日だそうです 結果を見に行きましょう。



ロータリーの奉仕哲学「超我の奉仕」 Service above self

このServiceの意味は人のためにつくすこと。ビジネスでもServiceの心がけはシェルドンの言葉を借りれば「永続的な顧客を得る道」であり、信用を増して繁栄への道につながる。